

ベストシーズンに上州展望の山と足尾の名山へ 子持山・皇海山

- 実施日 2015年10月12日(祝・月)~13日(火)
 天候 12日 晴れ 13日 晴れ/曇り
 リーダー 涌井 良明
 参加者 服部美千代、涌井良明、石附智江、遠井兼策(12日のみ)、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、徳山敬子、峯川弘子、清水久子、宮崎敏男 計11名
 費用 JR9,800円(東京起算) 乗車券1,260円
 現地送迎費@3,000円(宿支払分)
 宿泊費7,560円 合計21,620円
 タイム 10/12 渋川駅(8:50乗車)七号橋登山口(9:30~35)展望岩(9:30~40)獅子岩基部(10:45)獅子岩(11:05~10)獅子岩基部(11:25)柳木ヶ峰(12:02)子持山(12:20~13:00)昼食(13:50~14:00)総迎車(14:35)宿舎(15:50)泊
 10/13 宿舎(7:07送迎乗車)皇海橋登山口(8:50~9:00)距離中間点(10:05~15)不動沢のコル(10:55~11:05)皇海山(11:50~12:20)昼食(13:00~05)休1655付近(13:35~40)皇海橋(14:25~30送迎乗車)しゃくなげの湯(16:20~17:00)沼田駅(17:35~58乗車)高崎(18:44~58乗車)

日程が一日ずれたのが大正解で、両日共に秋の彩りを楽しみつつ充実した山行になった。例によって豪華な食事ときめ細かい送迎もあって、印象に残る山旅の一つになったのではないのでしょうか。

10/12 少し暑さも感じる渋川駅から3台のタクシーで子持神社奥の七号橋登山口へ。前日までの雨で滑り易い木道から登りが始まる、棧を踏んで滑らない



ように進むと、太鼓橋風の奥に覆いかぶさるような巨大な屏風岩にでる。

右へ沢筋に沿って高度を上げる。尾根に乗り右の展望岩に寄り道、迫力の獅子岩(大黒岩)のフェースや周囲の眺望に感嘆して、少し上部の獅子岩分岐に。



ザックをデポして(背負って行っても道はあるが)獅子岩に向かう。木の根・岩の多い急登から左右分岐を左に急登し、梯子とロープを頼って岩を乗越して獅子岩に。高度感と眺望は素晴らしいが、高所恐怖症にはあまり居心地は良くないかも。戻って、巻道から先へ進む、獅子岩基部からの道を合わせて尾根を登り、小ピークを越して石祠のある柳木ヶ峰で正午だったが、岩場登りもある残り20分を頑張って子持山頂へ。



一等三角点が置かれた北から東にかけて展望も良く、何組かの先客に混じってラン



チタイムである、ひとしきり賑やかな撮影も終わり、小峠に向けて下山開始。岩場もなくて歩き易い尾根を西に進

み、尾根の三叉路(導標なし)で右(北)がルートだが、確認不足でそのまま左方(南)へ行くが100m程で気づき分岐に戻る。ミスルートは群界線で最近仮払いもされて登山道にもなっているのでつい引き込まれてしまった。

樹林の広い尾根を下り、わらび荘分岐で林道を横断して、歩き難い急な階段道を下って、傾斜も緩んでしばらくで小峠に出る。ここからは右へ林道を歩くようになって開拓農地の登山口からは舗装路の下りになる。乗車まで30分程の所で、ペンションの送迎バスが入って来てくれたので、大助かりで車中人に。



日帰りの1名と沼田駅で別れ、宿へ。

豪華な夕食に備えて、温泉で体調を整えてから食事と多少のアルコールで1日目も終了、明日は皇海山だ。

10/13 7時過ぎに送迎バスで登山口を目指す。皇海山は登山口までが既に一仕事になる。追貝からの栗原林道は狭く宿のバスでは通行が困難なため、根利経路の林道から向かう。追貝側よりは路面は良いとのことだが、途中法面から剥がれたデカイ落石で、車幅がギリギリの箇所があり、あと10歩道路側に出っ張っていたら、登山はおろか、登山口迄も辿り着けなかったかも知れない。

今考えるととてもラッキーだった？
ダートの林道をタツプリと1時間オーバー、やっと皇海橋登山口に到着する。



立派な標柱の入口から登山道に、僅かに登って山腹の道から沢に降りて、不動沢沿いの登山道に行く。百名山で人が多い山

にしては登山道からも地味な印象だ。沢の徒渉を何回か繰り返しながら、赤布(テープ)を追って登って行く。

この辺りは木漏れ日が黄や紅の彩りにコントラストをつけて、秋絶好調の雰囲気です。辛さを感じない？

導標のある小広
い距離中間点で
休憩、これまで
急登はなかった
が、この先から
は山頂まで標高
差510mを一
気に登ることになる。



狭くなった沢身を登り、沢から離れて一気に稜線に突き上げる山腹道になると、濡れて滑り易い泥道の急登になる。段差も大きく張られた



手掛かりロープを掴んで体を引き上げるような登りがしばらく続く。不動沢のコルに飛び出すと正面に、それと判る鋸山と続く稜線が目に入る。

陽も陰り気味で少し寒さも感じるのので、ウィンドストッパーを羽織って残り280m山頂に伸びる尾根を登る。

尾根上を縫うように付けられた踏跡をやはり赤布を目印に登る。この登りも樹

林帯で展望はあまりなく、ひたすら上に上にと高度を上げるのみである。

傾斜が緩くなると、頂稜になって思いのほか狭い山頂に着く。

展望は殆どない樹林の囲まれた頂である。2等三角点と山頂標柱の立つ静かな頂だ。昼食には夕食の余ったビーフ・エビ・野菜などもあって山頂のひと時を過ごす。頭上は雲も広がり、気温も下がり風も冷たく感じるが、平日のため混雑もなく山頂の時間を



楽しめた。

下山では、登頂後の余裕なのか？登りでは気づかずに来た急傾斜の尾根道に改めてこの山の奥深さも感じた。また樹間から望む色付いた山並みにも、秋の味わいを感じることができた。

不動沢のコルに戻り、当初は此処から鋸山のピストンを目論んでいたが、下山後のアプローチにかかる時間などから断念、そのまま不動沢ルートを下る。

ロープの急傾斜から沢になって盛りの紅葉をしばし愛でたりしつつ歩く。

1箇所ちょっとした水際の岩のへつりもあるが(勿論往復)もあるが、やがて徒渉と沢沿いとなって、皇海橋登山口に下山した。



待っていてくれた送迎バスで、長い林道に戻り、途中のしゃくなげの湯で汗も流してサッパリして沼田駅へ。

2日間共天気も良く、秋を感じる山歩き、もちろん宿名物の夕食もしっかりと楽しめ、参加の皆さんにもそれなりに満足してもらえたのではないのでしょうか。

子持山の獅子岩をはじめとする絶景・眺望、人気のある山ながらも地味な感じや奥深い山を感じさせる皇海山、それぞれに趣のある二山を訪ねた山行になった。

順延とした日程にも拘わらず、参加いただいた皆さん有難うございました。

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・伊藤久雄/石原勝正)